

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：33938

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25590080

研究課題名(和文) 神楽による地域人材育成と地域の再生：新しい経営学「地域資源開発経営学」の構築

研究課題名(英文) Regional human resource and local regeneration by Kagura: Construction of new business administration "Regional resource development management"

研究代表者

赤岡 功 (Akaoka, Isao)

星城大学・その他・学長

研究者番号：10025190

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：多くの地方では、神楽など伝統的芸能・祭りは衰退傾向にある。しかし、広島では神楽は、大隆盛している。そこで、広島神楽がなぜ盛んであるか研究調査した。

その理由の第一は、広島神楽では、神楽の舞台、演出、衣装、舞、調子(音楽のテンポ)が、旧舞(旧式神楽)と異なり新しくなったことである。これらは、神楽におけるイノベーションである。そして、神楽団間のイノベーションの相互取り入れが促進されたことである。第二に、神楽の公演は都市の劇場でのコンテストとなることが多かったことである。これにより、神楽団の競争が強まった。

研究成果の概要(英文)：Traditional festivals such as Kagura are declining in many locals. However, the Kagura of Hiroshima is prosperous. So, I studied why Hiroshima's Kagura was flourishing.

In Hiroshima Kagura, the stage, direction, costume, dance, tune (the tempo of music) of Kagura became new, unlike the former dance (Old style Kagura). These are innovations in Kagura. And mutual adoption of innovation among the Kagura group was promoted.

Secondly, the performance of Kagura is more often to be a contest at a theater in the city. The Kagura group's competition strengthened.

研究分野：Corporate Strategy, Organization Theory

キーワード：神楽 広島神楽 伝統的芸能 祭 イノベーション

### 1. 研究開始当初の背景

高度成長期が終わり1990年代頃は、日本経済も停滞するなかで、地域の活力も弱くなっており、日本の伝統芸能や祭りも、一般的に沈滞しており、保存会などが細々と保護や活動の活性化につとめていた。しかし、伝統芸能や祭りの担い手は少なく、衰勢を止めるのは難しい状態であった。その中であって、広島神楽は、2000年頃から活発化をはじめ、2010年にはかなりの盛況をみせて、神楽甲子園が安芸高田で開催されるようになる」と(2011)、中国地方の山地で開催される神楽の競演に1000人とか2000人が集まるようになった。都市部の劇場で開催される神楽の公演には数千円の入場料で劇場を取り巻く行列ができることもあるほど、隆盛していた。

そこで、広島神楽の隆盛をもたらしている要因を明らかにできれば、伝統芸能や祭りを盛んにし、地域の活性化にいかすことができると考えた。

### 2. 研究の目的

そこで、例外的に、隆盛している広島神楽を調査研究して、地域の活性化、その担い手である地域人材の育成に有効な方法を研究し、日本の多くの地域での「地域資源」を活用して、地域の発展に役立てることに資する「地域資源開発経営学」の構築を行うとすることが、この調査研究の目的である。

### 3. 研究の方法

神楽や伝統的技術、各地の祭りに関する研究は大変多い。しかも、緻密で詳細であるものが少なくない。しかし、それらの関心は、地域の活性化、地域人材の育成におかれていないことが多かった。なぜなら、1970年代末までは、日本経済が高度経済成長しており、かつ地方も比較的安定的だったからである。しかし、経済がグローバル化するなかで、地方が競争的優位を失い、過疎化がすすむと、地域の活性化、地域の人材育成に関心を向ける調査研究が多少とも増えてきた。

そこで、文献研究を重視する。その上で

広島神楽団や、これに関係する官・大学・小中高校・地域団体の活動について、アンケート、インタビュー調査を行うとともに、村での神楽団の活動に参加して、神社での舞を見る幼児、子供、親、高齢者の感覚を体験する。神楽甲子園をつくりあげる高校生とアクションリサーチを行う。さらに、神楽競演会を調査する。

さらに、一次は停滞した地方もあるが、停滞経験地方も含め、愛知で再び盛んになってきているからくり人形を乗せた山車祭りの盛衰とそれと地域の経済との関係を取り上げ、上二つの伝統的芸能・祭りとの発展を比較研究する。

そして、全国的な地域資源開発経営学会を組織し、実践的理論の構築を行う。

### 4. 研究成果

伝統神楽は、「旧舞」といわれるが、それが次第に沈滞し、衰微する傾向をみせていた。「旧舞」は、神社で行われるものと村の寄合の場での舞が多かった。

村の寄合での神楽はしばしば村の人々の家族挙げての娯楽の会であり社交の場で、飲み会でもあり、幼児、子供の養育の場であった。子供たちは、神楽の演じられている場で、自らも舞い、女性に化けた鬼が登場すると、「それ鬼だよ。気を付けて!」と声をかける。地方社会が安定的に持続している間は、今日「旧舞」といわれるこれらの神楽も盛んであった。

しかし、経済のグローバル化がするにつれ、地方社会の競争的優位が低下し、地方の経済が沈滞し、それにともない人口の都市移動が多くなった。そのため、地方文化を支えてきた地方の人材が少なくなった。そのため、伝統芸能の維持が難しくなった。

この状態に変化をもたらしたのが、神楽のイノベーションである。それらを取り入れた神楽は「新舞」と総称される。伝統神楽の衣装は、華麗なものにされ、神楽のストーリーも演出も、観衆にサプライズを感じさせるものになった。それにより、成年男女ばかりか幼児も、神楽ファンになるものが増えてきた。とくに、幼児の場合は、ミハイ・チクセントミハイの「フロー(没入)」の状態になることも多く、深夜までの神楽を地域の多くが楽しむようになった。

競争の場：神楽競演大会

イノベーションが神楽の関心を高めはじめると、次々にイノベーションが行われた。舞台での「早変わり変面」、蜘蛛の糸などの小道具も、大サプライズをもたらすものになり、ファンを楽しませた。演者は、普段の農業労働で、日焼けし皺の多い人から、「追っかけファン」を生むほど魅力のある人へと変わり、メーカーもプロの指導を受けることが多くなっている。

このように、かつては沈滞していた神楽が数々のイノベーションを導入するようになったのは、多数の神楽団が、一堂に集まって神楽の優劣を争う競演大会が、神楽団間の競争を促進したからである。

そして、各神楽団は、すぐれたイノベーションをお互いに取り入れている。

そして、「旧舞」の神楽団も、「新舞」にイノベーションも取り入れるところも増えている。

神楽の隆盛は、地域の年配者の権威を回復し元気にした。

神楽は伝統芸能であるから、イノベーションを行うにしても、伝統的な価値、型、きまりから自由なわけではなく、それらを継承・発展させるなかで、イノベーションを行い、観衆の支持を獲得することになる。

このとき、地域で神楽を担ってきた人々の、

多くは年配者の指導をうけることは不可欠である。

この時、地域の年配者に、地域で活躍する場ができています。

からくりを乗せた山車祭りや愛知の高い経済力

時間不足のため、文献研究が主となったが、地域資源開発経営学構築にむけて明らかになったことの概要は以下の通りである。

全国47都道府県のなかで愛知県の工業出荷額は43.0兆円で、2位の神奈川県(17.4兆円)3位の静岡県(15.8兆円：なお大阪府この年15.6兆円で4位である)の2位3位合計33.2兆円より9.8兆円多い抜群の1位になっている(工業統計2016年公表)。これには、愛知ではイノベーション志向が強く、競争が激しい文化があることが大きく効いている。

このイノベーション好きは、愛知では、農業にもあらわれており、農業生産においても全国6位になっている。

愛知で、イノベーション志向が強くなった理由、競争が激しくなった理由については、かなり古い時代までさかのぼる必要があり、もっと調査研究が必要であるが、地域資源開発経営学構築にとって大変重要である。

地域資源開発経営学

地域の伝統的芸能を地域の資源ととらえ、それを開発し、いかすことで、沈滞を打破し、地域人材を育成し、地域の発展させる「地域資源開発経営学」を構築することを目指してきた。

愛知県知多半島には、東海市を含め、5市5町があるが、東海市の工業出荷額は、このなかで卓抜した1位であり、海岸線に大工業地帯が展開しているが、工場地帯は3重のグリーンベルトで住宅や田畑丘陵と隔てられており、各工場も樹木で取り囲まれているほか、煙突から排出するガスも集塵済みの水蒸気であり、地域の空気の清澄度は高く、夜は空に星が輝き、キジや昆虫が豊富でメダカもいる。そして、東海市の住みよさは全国で全813の都市のなかで、19位である(東洋経済社調査2016年)。

また、2000年ごろは山車祭りも元気ではなかったが、最近は盛んになっている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

濱田康行、仕事観が変わる 公益法人の経済教室、公益・一般法人、査読無、916号、2016、60-71

赤岡美津子、男女共同参画、今・昔、中部経済新聞、23141号 査読無、2016、4

濱田康行、アベノミクスと協同金融機関、査読無、しんくみ、61巻2号、査読無、2014、10-14

赤岡美津子、「本当の私」を探すためにー不登校を通しての、再生の道のりー、研究紀要(星城大学) 査読有、14号、2014、75-84

赤岡功、構造変化する地方の政治経済システムと企業経営、2014年度組織科学年次大会報告要旨集、査読無、2013、2-6

姜判国・平野実、ソニーの成長とイノベーション戦略の特徴、県立広島大学経営情報学部論集、査読有、2013、6巻、99-112  
朴唯新、日本の電気機器企業組織関係戦略の変遷ー新しい組織間関係の構築ー、2014年度組織科学年次大会報告要旨集、査読無、2013、23-28

赤岡美津子、虐待の連鎖を断ち切ってー「語ること」と「聴くこと」の力、研究紀要(星城大学) 査読有、13号、2014、75-84

〔学会発表〕(計8件)

藤井秀樹・今枝千樹、地域資源開発における非営利組織の役割と課題：広島神楽・東濃地歌舞伎における中間支援組織の事例研究、非営利法人研究会中部部会、2016年11月26日、愛知学院大学

赤岡功・平野実他5名、コーポレートガバナンスとオメガ型(新日本的)経営、実践経営学会第59回全国大会、2016年09月11日、近畿大学

赤岡美津子、個別面接の技法モデル：聴くことを中心として、日本教育カウンセラー協会、2016年08月06日、京都華頂大学

赤岡功、東海市の世界的地域資源を考える、日本地域資源開発経営学会第5回全国大会、2016年07月17日、星城大学(愛知県東海市)

赤岡功、地域の祭りや地域の発展：イノベーションと祭り、日本地域資源開発経営学会第4回全国大会、2015年07月12日、星城大学(愛知県東海市)

赤岡功、輝く知多と広島文化・経済、日本地域資源開発経営学会3回全国大会、2014年07月12日、星城大学(愛知県東海市)

高崎義幸、郷土芸能の文化変容ー広島神楽と韓国珍島シッキムを事例にー、日本地域資源開発経営学会2回全国大会、2013年07月07日、広島県民文化センター

〔図書〕(計2件)

伊東光晴・赤岡功、ビジネス経済応用 実教出版、2015、191ページ

藤井秀樹、国際財務報告の基礎概念、中央経済社、2014、223ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

赤岡 功 (AKAOKA ISAO)  
星城大学・その他・学長  
研究者番号：10025190

### (2) 研究分担者

平野 実 (HIRANO MINORU)  
県立広島大学・経営情報学部・教授  
研究者番号：00405507

### (3) 研究分担者

赤岡 美津子 (AKOKA MITSUKO)  
星城大学・経営学部・特任教授  
研究者番号：00460626

### (4) 研究分担者

崔 俊 (CHOI JUNE)  
星城大学・経営学部・教授  
研究者番号：50387908

### (5) 研究分担者

藤井 秀樹 (FUJII HIDEKI)  
京都大学・経済学研究科(研究院)・教授  
研究者番号：80173392

### (6) 濱田 康行 (HAMADA YASUYUKI)

道都大学・経営学部・教授  
研究者番号 80156405  
(平成27年度より研究協力者)

### (7) 日隈 健壬 (HIGUMA TAKEYOSHI)

広島修道大学・人文学部・教授  
研究者番号：40090229  
(平成26年3月まで参画)